

【専門教育科目/看護の展開/在宅看護学】

| 科目名 | ナンバリング | 区分(必修・選択) | 単位数 | 履修年次 | 開講学期等 |
|--|---|------------|-----------------|---------------|-------|
| 在宅看護学実習 I (地域) | NSP34_008 | 必修 | 1 | 3 | 後期 |
| 担当教員 | 研究室 | 電子メール ID | オフィスアワー | | |
| 渡邊美樹 他 | 303 | m-watanabe | 水曜日 12:10~13:00 | | |
| 授業の目的・概要 | 市町村保健センターや地域包括支援センターにおいて、地域住民に対してどのような看護が提供されているかを、保健師の活動や地域ケアシステム・連携等の実際を通して学ぶことを目的とする。実習方法は、課題学習・地区めぐり・保健事業への参加等を実施し、地区めぐりでは、地域住民の暮らしや地域の中で利用できる保健医療福祉システム・施設等を地域に出て調査する。 | | | | |
| 学習上の助言 | 行政保健師の活動を通して、地域で生活する人々の健康がどのように守られて支えられているのか、興味をもって学習してほしい。 | | | | |
| 教科書 | 厚生指 標 増刊 国民衛生の動向 2022/2023 | | | | |
| 参考書 | ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア/編:臺由桂他/メディカ出版/2022 ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術/編:臺由桂他/メディカ出版/2022 | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | | | | 関連卒業認定・学位授与方針 | |
| ① | 地域で行われる看護や対象者に興味を持ち、主体的に実習に取り組むことができる | | | NS(1)、(5) | |
| ② | 地域に暮らす人々の健康に影響を及ぼす環境や生活の様子など地域特性を説明できる | | | NS(1)~(3) | |
| ③ | 保健センターや地域包括支援センターの機能と役割を説明できる | | | NS(2)~(4) | |
| ④ | 在宅用容赦や家族の生活を支えるための社会資源の活用や関係機関との連携について説明できる | | | NS(2)~(4) | |
| ⑤ | 地域における看護活動の意義を説明できる | | | NS(1)~(4) | |
| 授 業 計 画 | | | | | |
| <p>1. 実習時期と期間 3年次後期 1週間</p> <p>2. 実習場所 富士吉田市、富士河口湖町、西桂町、都留市、大月市 (予定)</p> <p>3. 実習方法</p> <p>1) 課題学習 実習する市町の概要や保健事業について調べる 保健センターと地域包括支援センターの役割・機能を調べる 生活習慣病対策等、市町で行われる健康づくりの取り組みを国民衛生の動向によりまとめる 実習での体験を通じた気づきや学びをグループ学習により整理する</p> <p>2) 地区めぐり 独居高齢者 (A さん) の生活をイメージしながら実際に地域を歩き、地域特性の理解と必要な支援方策を考察する</p> <p>3) 保健事業等への参加および住民との交流 地域住民の方との交流を通して、保健事業や地域における看護活動の必要性を考察する</p> <p>4) 実習での学び報告会 実習での体験や気づきを学生間で共有し地域の中で提供される看護活動について学びを深める</p> <p>5) 日々の学びを実習記録にまとめる</p> | | | | | |
| 学習課題・学習時間 (時間) | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題学習では提示された課題について取り組み、学びや考えたことをわかりやすく表現しまとめる。 ・実習中、日々の学びを記録にまとめる中で、地域住民の生活の様子や地域における看護活動の意義などを考察していく。また、疑問点はなるべくその場で質問紙解決するとともに、自主学習においても調べる習慣を持つ。 ・実習終了時にはテーマに沿って自分の考えをレポートにまとめる。 | | | | | |
| 必要時間： 5 時間 | | | | | |

【専門教育科目/看護の展開/在宅看護学】

| 総合評価割合 (%) | | 達成度評価 | | | | | 合計 |
|-----------------|--|-------------|--|------|---------|-----|--|
| | | 試験 | レポート | 成果発表 | ポートフォリオ | その他 | |
| | | 0 | 50 | 20 | 10 | 20 | 100 |
| 総合力指標 | 知識・技術力 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | 思考・推論・創造する力 | 0 | 20 | 0 | 5 | 0 | 25 |
| | 協調性・リーダーシップ | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 5 |
| | 発表・表現伝達する力 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | コミュニケーション力 | 0 | 0 | 10 | 0 | 5 | 15 |
| | 取組みの姿勢・意欲 | 0 | 0 | 10 | 0 | 10 | 20 |
| | 問題を発見・解決する力 | 0 | 10 | 0 | 5 | 0 | 15 |
| 評価のポイント | | | | | | | フィードバックの方法 |
| 評価方法 | 行動目標 | 評価の実施方法と注意点 | | | | | |
| レポート | ① | ✓ | 「本日の実習記録」において、日々の実習目標を立て、教員のチェックを受ける。さらに、実習実施内容および学びをまとめ翌日提出する。実施した内容だけでなく、体験から何を学んだかを考察することが大切である。 実習終了時には「実習のまとめレポート」を作成し指定期日までに提出する。 | | | | 「本日の実習記録」をもとに、学生の理解度を確認し、個別かグループで振り返りの機会を作る。 |
| | ② | ✓ | | | | | |
| | ③ | ✓ | | | | | |
| | ④ | ✓ | | | | | |
| | ⑤ | ✓ | | | | | |
| 成果発表 | ① | ✓ | 地区めぐり実施後、地域特性や生活上の課題をグループで話し合い発表する。 実習最終日には、学内において学びの発表会を行う。 | | | | 発表会において教員から講評を行う |
| | ② | ✓ | | | | | |
| | ③ | ✓ | | | | | |
| | ④ | ✓ | | | | | |
| | ⑤ | | | | | | |
| ポートフォリオ | ① | ✓ | 課題学習や日々の記録など学習した内容の資料を整理し、実習終了後に提出する。 | | | | 内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする |
| | ② | | | | | | |
| | ③ | | | | | | |
| | ④ | | | | | | |
| | ⑤ | | | | | | |
| その他 | ① | ✓ | 学生が達成すべき行動目標①～⑤の到達度、および、実習への姿勢について教員により総合的に評価する。 | | | | 学生の自己評価をもとに、学生自身の課題が明確になるように教員と面接を行う |
| | ② | ✓ | | | | | |
| | ③ | ✓ | | | | | |
| | ④ | ✓ | | | | | |
| | ⑤ | ✓ | | | | | |
| 備 考 | | | | | | | |
| 他 担 当 教 員 | 山崎洋子、望月宗一郎、伊丹幸子、馬淵路子 | | | | | | |
| 教 員 の 実 務 経 験 | 担当する教員は、保健所・市町村における行政保健師活動および訪問看護活動、さらに病院における外来業務や医療連携室での退院支援や療養生活相談等の経験を有する。 | | | | | | |
| 実 践 的 授 業 の 内 容 | 看護師や保健師としての経験をもとに、地域で生活する対象者の健康を支える看護の実際を、現場の公衆衛生看護活動に意味づけしながら指導し、人々の暮らしに寄り添った看護に必要とされる知識の習得を目指す。 | | | | | | |
| そ の 他 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学が公表している感染対策および教員が示す実習方法を遵守すること。 ・学外での実習の際、公共交通機関を利用した移動となるが、感染予防行動を徹底するとともに、日ごろから自身の体調管理を心掛けること。 ・実習施設では、実習指導者の指示に従って行動すること。 ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更が生じる可能性がある。 | | | | | | |